

会 議 議 事 録

1 会議名	令和7年度 第3回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和8年2月18日（水曜日） 午後2時から4時まで
3 開催場所	さいわいプラザ3階 中ホール
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>渡辺美子委員長、山川千恵子副委員長、佐藤昌弘委員、永井林一郎委員、太田洋一委員、宮下一穂委員、佐藤恵子委員、若井仁資委員、櫻井和夫委員、日野奈保子委員、田邊香織委員、五十嵐俊子委員、高橋美幸委員、高橋 聡委員、横澤勝之委員、久保和喜委員、竹内祐貴委員、池田吏恵委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：星野部長 保育課：殖栗課長、高橋係長、野添係長 こども家庭センター：大久保所長 学校教育課：大田係長 子ども政策課：松木課長、木村課長補佐、馬場係長、丸山係長 田村主任、猪又主事、金子子どもナビゲーター 池田子どもナビゲーター</p>
5 欠席者名	宮下あさみ委員、成田 涼委員
6 議題	<p>(1) 令和8年度長岡市特定教育・保育施設等の利用定員について</p> <p>(2) 令和8年度長岡市乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の実施施設等について</p> <p>(3) 児童会館・児童クラブ運営業務の民間委託後の状況について</p> <p>(4) 令和8年度子育て支援に係る予算の概要について</p>
7 会議結果の概要	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1に基づき説明 ・質問・意見なし <p>議事 (2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.2に基づき説明 ・質問・意見等は下記のとおり <p>議事 (3) について</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.3に基づき説明 ・質問・意見等は下記のとおり <p>議事（4）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.4に基づき説明 ・質問・意見等は下記のとおり
8 会議の内容	
事務局	1 開会
	2 あいさつ 星野部長
	3 議事
委員長	議事（1）について事務局の説明をお願いします。
事務局	資料No.1に基づき説明
	（質問・意見なし）
委員長	議事（2）について事務局の説明をお願いします。
事務局	資料No.2に基づき説明。
委員	量の見込みの割には定員に余裕があると感じた。一般型はこの事業のために人員配置をしているので、実施園は努力していると感じた。
委員長	利用者が空き状況等を把握するにはどうしたらよいか。
事務局	市のホームページに利用方法等の掲載を予定している。
委員	4月1日現在は空きは無いが、あらかじめ園児が欠席すると把握している日は、空きがあると情報発信してよいものか。
事務局	すでに入園している園児の枠はこの事業には利用できない制度となっている。
委員	現場の職員からは、利用する乳幼児が慣れない環境で泣き続けな いか心配する声がある。実際にやってみないと分からないことが多い。

委員長	やってみて情報交換していくことになるのか。
事務局	先行実施している自治体では、利用実績が少なく、なかなか保護者のニーズを掴めないという話も聞かれるため、随時、実施施設と情報共有しながら進めていく必要がある。併せて、この制度の周知にも努めたい。
委員長	新しい制度なので、この事業が長岡市に合う事業となるかどうか、アドバイザーから後程お聞きしたい。
委員長	議事（3）について、事務局の説明をお願いします。
事務局	資料No.3に基づき説明。
委員	<p>ICTの導入により、保護者と児童クラブとの連絡体制はよくなったと感じている。気になる点は、昨年度までは複数の担当者がいて、現場で相談できる体制ができていた。今年度から小規模施設では主任支援員が1人となり、相談しながら進めることができていない。また、民間委託になったことにより研修や会議が多く、主任に負担がかかり、大変そうである。今後改善されていくものだと思うが、2人体制も検討していただきたい。</p> <p>これまで児童クラブでは地域の人との関りが強かったが、現在は地域外の知らない人が来て見守りをするところがある。子どもたちは地域で育てるという市の方針とずれるのではないかと懸念している。</p> <p>また、長期休業中の昼食提供について、大規模の施設だけでなく小規模な児童クラブにおいても市からの補助もいただきながら実施してほしい。採算に合わないという状況もあると思うが、平等性、公平性という観点からも検討をお願いしたい。</p>
事務局	<p>主任支援員が1人の施設では、主任の負担が多くなっている現状は報告をもらっている。これまで一緒にやってきた主任以外の支援員からもサポートができる環境づくりをしてほしいと伝えている。また、エリアマネージャーが週1回程度、各施設を回る中で主任の相談にのっている。担当課として主任の負担軽減できるように委託業者と連携しながら取り組んでいきたい。</p> <p>地域人材が関わるという点について、約9割の職員が民間委託</p>

委員	<p>後も継続して勤務している。臨時的に他地域の方が来て対応していることはあるが、その場合でも地域の事情に寄り添った対応ができるよう周知していきたい。</p> <p>昼食提供については、いただいたご意見や試験的に実施した内容を踏まえて、今後の方向性を委託業者と協議していきたい。</p>
事務局	<p>気にしているのは、児童クラブが業務委託になったこと。民間企業は利益を追求するため、業務効率化や今後、地域人材が採用されないのではないかと危惧している。</p>
事務局	<p>業務委託により、市全体で平準化できるところは平準化していくことを目指してきた。その一方で、受託者が1年間児童クラブを運営していく中で、各地域の特色を活かすことの必要性があることも理解していただいた。平準化すべき部分と各地域の特色を活かす部分とのバランスを取りながら今後も調整をしていきたい。</p>
委員長	<p>議事（4）について、事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料No.4に基づき説明。</p>
委員	<p>宿泊型の産後ケア事業を利用している人数はどのくらいか。</p>
事務局	<p>令和6年度の実績で、実人数7人、延べ日数は43日であった。</p>
委員	<p>八幡産科婦人科医院が宿泊型施設に入っていると思うが、忙しくて受け入れないと聞いている。そのあたりはどう考えているか。</p>
事務局	<p>八幡産科婦人科医院が忙しいというのは承知している。令和8年度からは、大きい病院も含めて受け入れ病院を増やす方向で話を進めている。</p>
委員	<p>不妊治療費の補助を利用できる年齢制限はあるのか。</p>
事務局	<p>保険適用の範囲内となるため、生殖補助医療の観点では、43歳未満となる。なお、不育治療費については、年齢制限は設けてい</p>

委員	<p>ない。</p> <p>ながおか Come100 クラブ活動について、自分の子どもも利用しているが、テニスボールなど学校の備品は使えないと言われたため、別途購入した。そのあたりの費用負担はどのように整理されているか。</p>
事務局	<p>平日の部活動は学校が継続しており、学校で持っている用具類は学校で保管している。したがって、ながおか Come100 クラブ活動で活用することは今のところ考えていない。なお、登録しているクラブが持っている用具類は、活動費から捻出しているため引き続き活用してほしい。</p>
委員	<p>大会引率にかかる費用の補助をするのであれば、用具類の購入費も補助してほしい。現在加入しているクラブの人数が少なくなれば統廃合となる。クラブの統廃合に伴い、購入した用具類の点数が減らないように管理をしっかりとしてほしい。</p>
事務局	<p>設置されたクラブが継続するよう努力することはもちろんであるが、もし継続できず統廃合となるときは、しっかりと話し合いながら進めていきたい。</p>
委員	<p>ほっとルームの分室を市街地に1か所、支所地域に1か所設置するという発言があったが、どこに設置する予定か。</p>
事務局	<p>教育センターのほかに、中学生、高校生が自分で交通機関を使って来所することのできる場所を市街地で探している。また、支所地域においては、どこに分室を設置すると集まりやすいか検討中である。</p>
委員	<p>ほっとルームを利用する人数は増えているが、そこにくる子どもたちは何を求めているのだろうか。利用している子どもたちが答えをもっていると思うので、子どもの声を聴き取ることが大切だと思う。そのあたりはどのように取り組んでいるか。</p>
事務局	<p>教育センターの支援員が子どもの様子を把握するとともに、学校内にも教育支援センターという組織があるため、より連携を深</p>

	<p>め、子どもたちが段階的にステップを踏めるように支援していきたい。</p>
委員長	<p>今後の利用者の推移はどのように予想しているか。</p>
事務局	<p>今後も増えるものと予想している。</p>
委員長	<p>大島中学校にもほっとルームのような部屋が設けられており、生徒を見守る支援員から話を伺うと、子どもの自主性を尊重するため、あまり声はかけないと聞いた。大人も時代に合わせて新しい情報や知識を取り入れていくべきであると改めて感じた。</p>
委員	<p>周りにも学校に行けなくなった子どもが何人かいるが、事情は一人一人違い、それぞれにあった対応が求められると思う。どのような対応が効果的は分からないが、子どもの意見を汲み取って、一人でもそのような子どもが少なることを期待している。</p>
委員長	<p>子ども・子育て委員の任期は2年のため、このメンバーで集まるのは今回が最後となる。この場で聴いておきたいことはあるか。</p>
委員	<p>児童クラブの民間委託について、委託内容の見直しにあたっては、子ども・子育て会議も関わるのか。</p>
事務局	<p>民間委託を導入する際と同様に、子ども・子育て会議のワーキンググループを設けて、その場で意見を聞きながら次に向けて準備をしていきたい。</p>
アドバイザー	<p>4 その他 アドバイザーからのまとめ</p> <p>○誰でも通園制度について</p> <p>国の資料に示されているように、こども誰でも通園制度は、親のリフレッシュ、一時預かりではない。したがって、「今日空いているから使えますか？」という使い方はない。利用者から相談を受ける中で、サポートプランの中に取り込むなど包括的な枠組みで考えてほしい。この事業では、親が子どもを育てる方法などを学ぶ場となる。定期的に通うことで、園での日常を継続的に見ることが出来る。子どもが他者とたくさん関わる場面を見てきていない世代の保</p>

<p>事務局</p>	<p>護者に、保育とはどういうことなのかリアルに伝える場として見ていただきたい。都心部と長岡市とでは状況も違うし、受け止めも違う。長岡市であればこういう方向ができるという形をつくっていくしかない。</p> <p>○ほっとルームについて</p> <p>学校という場にはにつながっていただきたい。学校には専門教育を受けた先生方がいるので、そういった場で社会性を育む。これらは子どもたちにとって必要なことである。継続的につながりを持つことが大切であるため、今後の活動に期待したい。</p> <p>○こども政策全般について</p> <p>今の若者たちはZ世代である。デジタルネイティブが最初からあり、タイパ、コスパ第一である。この世代の子たちが何を求めているかを見ていく必要がある。タイパと子育てだけは相性が悪いが、そういう世代であるということを知っておいてほしい。若者は長岡に残っていないわけではない。大人や社会が望む残ってほしい人数と現実とが合っておらず、それ以上に流出していることを丁寧に見ていかなければならない。地元に残っている若者は、自分たちはどう見られているのか、自分はここにいるのに、社会全体は長岡にもっと残ってほしいと発信している。残って頑張ろうとしている若者たちは、誰がどこで見ているのか。残っている若者たちに一緒に歩んでいくことも考えてほしい。今大人や社会が求めているところと若者との間にギャップが起きているという認識をもってもらいたい。</p> <p>5 閉会</p>
<p>9 会議資料 別添のとおり</p>	